

ネクスト・ファーマ・エンジニア養成コース シラバス

開催方法 (○で囲む)	1 ライブ 2 オンデマンド
※配信日時 (ライブの場合)	
科目名	製剤4 多変量解析を活用した製剤特性の理解
担当教員	順天堂大学薬学部 教授 大貫 義則 氏
授業の内容	製剤の品質や性能には、様々な製造条件(製剤処方や製造工程パラメータ)が複雑に影響しているため、製剤設計を行う際に取り扱う実験データは複数の因子(製造条件)が特性(製剤物性)に影響する多変量データである。近年、Quality by Design (QbD)に基づく製剤設計(QbD アプローチ)が普及し、製剤特性に影響する製造条件(製剤処方や工程)との関係を科学的根拠に基づいて深く理解することが求められるようになった。それに伴い、近年の製剤設計では、多変量データ解析手法がますます重視されるようになっている。そこで、本講義では代表的な多変量データ解析手法として主成分分析および重回帰分析を学習する。なお、それら手法の製剤設計への具体的な適用をイメージしやすいよう、口腔内崩壊錠の処方設計に関連した事例研究を紹介しながら解説していく。
学生の到達目標	主成分分析および重回帰分析の概念を理解できる。 さらに、それら手法を使った解析結果を理解できる。。
キーワード	QbD、主成分分析、重回帰分析、処方設計
その他、受講上の注意事項や学習上の助言など	